

## 東海道駿河以東：17 保土ヶ谷町—天王町—浅間町—青木橋—神奈川—子安町

### 保土ヶ谷宿 戸塚宿から2里9町

本陣1、脇本陣3、問屋1、旅籠67。町並み東西南北19町。慶長2年(1597)帷子、新町、保土ヶ谷の3集落が合併する。戸塚宿が出来るまでは江戸から一泊目は保土ヶ谷であった。



### 荏部本陣

荏部氏は後北条氏の家臣荏部豊前守康則の子孫という。代々清兵衛を名乗り、紀伊国屋文左衛門の次男が養子に入る。本陣廃止の時、軽部と改姓。明治の大火で門だけ残る。8代目清兵衛の孫娘、タマは昭和天皇の乳母をつとめる。10代目は横浜町の総年寄りを勤め町の発展に貢献する。



### 浅間神社 富士の人穴

鳥居左上山腹に洞穴があり、富士裾野の「人穴」と繋がっているという。富士の裾野で頼朝が狩をしたときに仁田四郎田忠常に「人穴」を調べさせた時にここから出てきたとの伝えあり。戦後の調査で横穴式古墳という。

### 遍照寺

狂歌三大家の一人朱楽菅江の記した百万遍供養塔が建つ。菅江は本名は山崎景基、幕府の与力。  
「百万の数珠のくりきも磐石のころこひとつにたつ供養塔」



樹源寺、高札場跡、茶屋本陣跡、問屋場跡、道標四基、鎌倉街道、金沢街道(八景島)、弘明寺道、道標、外川神社、一里塚跡、脇本陣跡、荏部本陣跡、御所台の井戸。鎌倉に通じる道、この井戸の水で政子が化粧したとの伝え。荏部本陣も將軍の御膳水として利用。

### 神奈川宿 保土ヶ谷宿より1里9町

本陣2、脇本陣0、問屋1、旅籠58。茶店4町並み 東西18町29間。今は埋め立てられてない狩野川、金川、また上無川と呼ばれた川の名から神奈川の地名となった。安政6年(1859)日米修好通商条約が結ばれた時、長崎、新潟、兵庫、函館と共に神奈川港も開港することになったが幕府は神奈川港は宿場町のため人の往来が多いので外国人との接触をさけたい意向から、外国の反対を押し切って横浜村を港湾施設の整備をし開港した。宿内には攘夷派の志士の不穏な動きを監視する関所が置れた。神奈川宿は景勝地「袖ヶ浦」で知られ台町辺りの高台から見る入江や海一帯は風光明媚であったという。

[弥次・喜多]

金川台の茶店に入り、焼き鰻注文。  
「ござつたと見ゆる目とのおさかなは  
さてはむすめがやきくさつたか」  
「うまそうにみゆるむすめに油断す  
なきやつが焼たるあぢのわるさに」



勸行寺近藤勇墓

[弥次・喜多]  
とめ女の客引きの様子を見て  
「おとまりはよい程谷ととめ女  
戸塚前でははなさざりけり」



神奈川台関門跡碑



### 蓮法寺

雄略天皇の御代、相州(神奈川県)三浦の住人、浦島大夫は竜宮に遊び、玉手箱と観音像を土産に帰った。我が家も無く、知る人も無く、思い悩んで箱根で玉手箱を開け老人となる。この地で両親の墓を見つけ自らの墓を建て観音像を奉納し竜宮へ帰ったという。かつて浦島寺といわれる観福寺があったが慶応4年(1868)消失、慶運寺に合併される。



### 成仏寺

宣教師達の宿舎。ローマ字のヘボン式を考案したヘボン博士が伝道や医療に力を入れた。

### 慶運寺

フランス領事館が置かれた。観福寿寺にあった浦島父子の墓がこの寺に移される。

### 宗興寺

殺虫剤セメン円を造ったセメンズ博士が滞在した寺。將軍が上洛の時使ったとされる大井戸が残る。神奈川の大井戸で知られる。井戸の水位で天気を占ったとか。

### 本覚寺

アメリカ領事館が置かれた寺。アメリカ公使はリスと交渉した岩瀬忠震の碑が境内にある。

### 田中家

以前は旅籠「さくらや」広重も描いている。文久3年(1863)から続く料亭。高杉晋作、ハリスも利用。坂本竜馬の妻「おりょう」は勝海舟の紹介でここで働く。(明治7年より)おりょうは英語が話せ、月琴が弾け外人に人気があった。